

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

【コラム】一気に七つも！ グリム童話を考える？

著者	大野 寿子
著者別名	ONO Hisako, OHNO Hisako
雑誌名	東洋通信
巻	49
号	3
ページ	4-8
発行年	2012
URL	http://id.nii.ac.jp/1060/00010937/

オアシス



一氣に七つも！ ——グリム童話を考える⑧——

大野 寿子

ドイツ連邦共和国ヘッセン州にマールブルクという都市があ

る(図一)。観光面ではメルヒェン街道の町としても名高いこの都市のホームページを見ると、「グリム年・二〇一二年」の項目に、「一氣に七つも！」というイベントテーマが掲げられている。グリム兄弟編集『子どもと家庭のためのメルヒェン集』(通称『グリム童話』)第一巻第一版が一八二二年に刊行されて、今年でちょうど二〇〇年。グリム兄弟の学び舎であったフィリッ

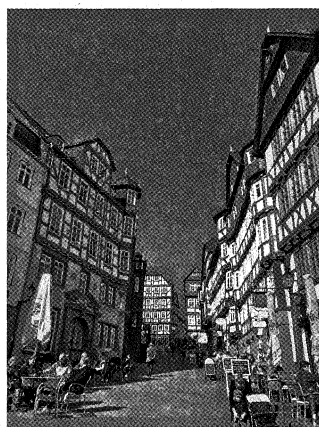


図1 マールブルク旧市街の木組みの家(筆者撮影)

プ大学マールブルク(通称マールブルク大学)の位置するこの都市では、グリム童話刊行二〇〇年記念行事が、今年二〇一三年は目白押しな

のである。

「一氣に七つも！」を「一打ちで七匹も！」といいかえれば、日本語として理解しやすいかもしれない。グリム童話(Kinder-und Hausmärchen, 以下KHMと略記)第二〇番「勇ましいちびの仕立て屋」にでてくる有名なフリーズである。小さな仕立て屋が、ジャム付きパンに集っていたハエを一打ちで七匹、すなわち一氣に七つもしとめて得意げとなった。「一氣に七つも！」というフリーズが氣に入り、それを刺繍したベルトを仕立てて体に巻き、意気揚々と力試しの旅にでるのである。日本語であえていなおせば、一石二鳥ならず「一石七鳥」、百発百中ならず「一発七中」のようなものであろう。「一氣に七つも！」というこのキャッチフリーズを掲げて、マールブルク市文化局が、グリム童話刊行二〇〇年記念の七つのイベントを、今年一年かけて開催するのである。

当該サイトは以下のとおり少々謎めいている (<http://www.marburg.de/de/110426>)。

「一氣に七つも」(7 auf einen Streich)

マールブルクのカエルの王さまが、もう四〇〇〇匹以上も買われていった。カエルの王さまがオーストラリアにもいる！中国にもいる！チリにも、コスタリカにもいる！イースターにちなんだコンクール開催。

『子どもと家庭のためのメルヒェン集』刊行二〇〇〇年を記念する二〇一二年・グリム年。一八二二年二月二〇日に、『子どもと家庭のためのメルヒェン集』がヤーコプとヴィルヘルムのグリム兄弟編集により刊行された。ユネスコ世界記憶遺産登録は、マールブルク大学の学生だった世界的に有名なグリム兄弟を祝う、二〇一二年・グリム年の好機となる（二人は、一八〇二年から一八〇六年の間マールブルク大学で学んでいたのだ）。

「一氣に七つも」というモットーを掲げ、文化局がさまざまなイベントを一氣に開催する。

一 大学教会とコルンマルクト広場で「星の銀貨」の光のアート・プロジェクト。流れ星が流れたら、星に願い

を！

二 「グリムの小道」(グリム・ディッヒ・ヴェーク)のリニューアル。シュタインヴェーク道から城に至るまで。二〇一二年四月二一日に大々的な「グリムの小道」行列を催し開通。

三 城内公園・グリム公園。造形芸術研究所とのアート・プロジェクト。二〇一二年六月一日の内覧では美食文化的野外イベントを開催。

四 本当にヘッセン仕立て？地域と生活とメルヒェン。方伯城の文化史博物館六階で常設展示。内覧は二〇一二年二月七日に予定。

五 マールブルクの「カエルの王さま」が旅に出る。旅の途中でコンクールに参加しよう。商品もあるよ。

六 グリム・ライブ。演劇・音楽・文学・展示・マルチメディア・学問・飲食業。二〇一二年いっぱい開催。二〇一二年年一二月二〇日の出版記念日には、シュヴァンホーフ劇場でグリム記念公演を開催。

七 メルヒェンとマルチメディアとの出会い。QRコードでグリム・ニュース。マールブルクの中心で目を開けて！そして携帯を持って！

七つも！勇敢な仕立て屋だけでなく、イベント参加者の皆さんもしとめてみよう〔後略〕。

当該サイトには、グリム童話に関する知識が試される、様々な仕掛けが施されているように思われる。説明を加えていこう。

まず、カエルの王さまとは、KHM第一番に収録されている「カエルの王さまあるいは鉄のハインリヒ」のことである。末っ子王女さまの金の毬を水底からとってきた親切なカエルは、約束を守らない王女の後を追って城へとはいる。父である国王の「約束は守るように」との忠告にしたがい、彼女はカエルを自分の部屋にいれる。王女のベッドでいっしょに寝たいというカエルの要求にうんざりした王女は、こともあるうにカエルを壁に



図2 巨大なカエルの王さま、マールブルク文化局にて（筆者撮影）



図3 マールブルクのカエルの王さま（ミニ）（筆者撮影）

投げつける。カエルはイケメン王子の姿に戻り、王女と結婚してめでたしめでたしという話である。このカエルの王さま（本当はカエルの王子さまというべきであろう）が巨大化して、二〇一二年・グリム年にマールブルクに現れた（図二）。天井に冠がつかえる程の巨大さだ。それ

を「マールブルクのカエルの王さま」と呼び、行列イベントを行ったようである。そのミニバージョンが図三のとおりであり、マールブルクのいたるところで今売られている。このカエルの王さまを旅行先の風景とともに写真撮影し、その画像のフェイスブック当該サイトへの投稿してくれるよう、市では募っている。そしてその画像でコンクールが行われるというのが、五番目のイベントの詳細である（www.facebook.com/marburger.froschkoenig）。筆者も「カエルの王様・イン・ジャパン」の画像投稿を頼まれて、福岡の太宰府天満宮で撮影してみた（図四）。この画像もすでにアップされているようだ。

第一番目のイベントは、KHM第一五三番「星の銀貨」にまつわるものである。天涯孤独の身で寄る辺ない小さな子どもが乞われるままに、自分の粗末な衣服や帽子をつぎつぎに無償で与えてゆき、身に着けるものをすべてなくしてしまう。すると



図4 カエルの王さま・イン・太宰府（筆者撮影）

空から星が降り注ぎ、それらがすべて銀貨に変わる。その銀貨で彼女は一生裕福に暮らしたという話である。マールブルクの教会の壁に「星の銀貨」の一面を光線で投影し、しかもそこに流れ星を流そうというロマンティックなこの企画は、もう始まっている（図五）。



図5 星の銀貨光のアート (HPより)

第二番目のイベ

ント「グリムの小道」は、マールブルク旧市街と城とエリザベート教会をつなぐいくつもの小道に、グリム童話にちなんだデコレーションやミニメントを掲げて、散歩を楽しんでもらおうという企画である。ドイツ語ではGrimm-Dich-Pfadグリンディッチパフとされるグリンディッチは、「シェイプアップしよう」という意のTrim-Dichトリムディッチの言葉あそびである。この「グリムの小道」群は高低差一〇九メートル、全体で二八二段の階段を含む規模であり、散歩してシェイプアップするにはうってつけの少々ハードな道のであるためこの言葉遊びを用いたと、マールブルク市文化局長リヒャルト・ラウフナー氏が語ってくれた。グリム兄弟自身も坂道の多い町として嘆いていたようだ。マールブルク旧市街地図に記された「グリムの小道」を図六に記す。筆者の翻訳のつたなさはご海容のほどを。

『グリム童話』第一巻第一版はユネスコ世界記憶遺産に登録され、そのお祝いも兼ねているマールブルク市のこのイベントは、見方によっては、グリム童話を利用した観光客集めにとられもしよう。しかしながら、このようにしてグリム童話が様々な人々

にさらに知られていくのなら、そしてその結果、グリム童話を人々が二一世紀的に体験できるなら、それもグリム童話の一つのかたちだと思う。楽しければそれでもいいとはいわないが、楽しいことを楽しんでもいいのではないか。

ちなみに、二〇一二年は東洋大学にとっても創立一二五周年の記念の年である。そしてグリム兄弟が学んだマールブルク大学は、くしくも東洋大学と姉妹提携校である。このような条件がそろえば、東洋大学創立一二五周年記念イベントとして、グリム童話刊行二〇〇年記念イベントを、しかもマールブルク大学の協力のもと開催するのも悪くない。そして、その記念イベントが実現する。二〇一二年一月二〇日に東洋大学で、マールブルク大学との提携強化を目指した、グリム国際シンポジウム「グリム童話二〇〇年の歩み」を開催することになった。同じくドイツ・ヘッセン州カッセル市のグリム博物館・古文書館の協力も得て、グリム童話の歴代の挿絵なども展示できたらともくろんでいる。グリム童話研究がこのような様々なイベントを通じ、東洋大学とマールブルク大学のみならず、日本とドイツを、そして過去と未来をつなぐ架け橋になればと願っている。

— おおの ひさこ・文学部准教授 —

付記 本稿執筆に際し、マールブルク市文化局局長リヒャルト・ラウフナー氏 (Herr Dr. Richard Lauffer) にご協力いただいた。この場を借りてあつく御礼申し上げます。

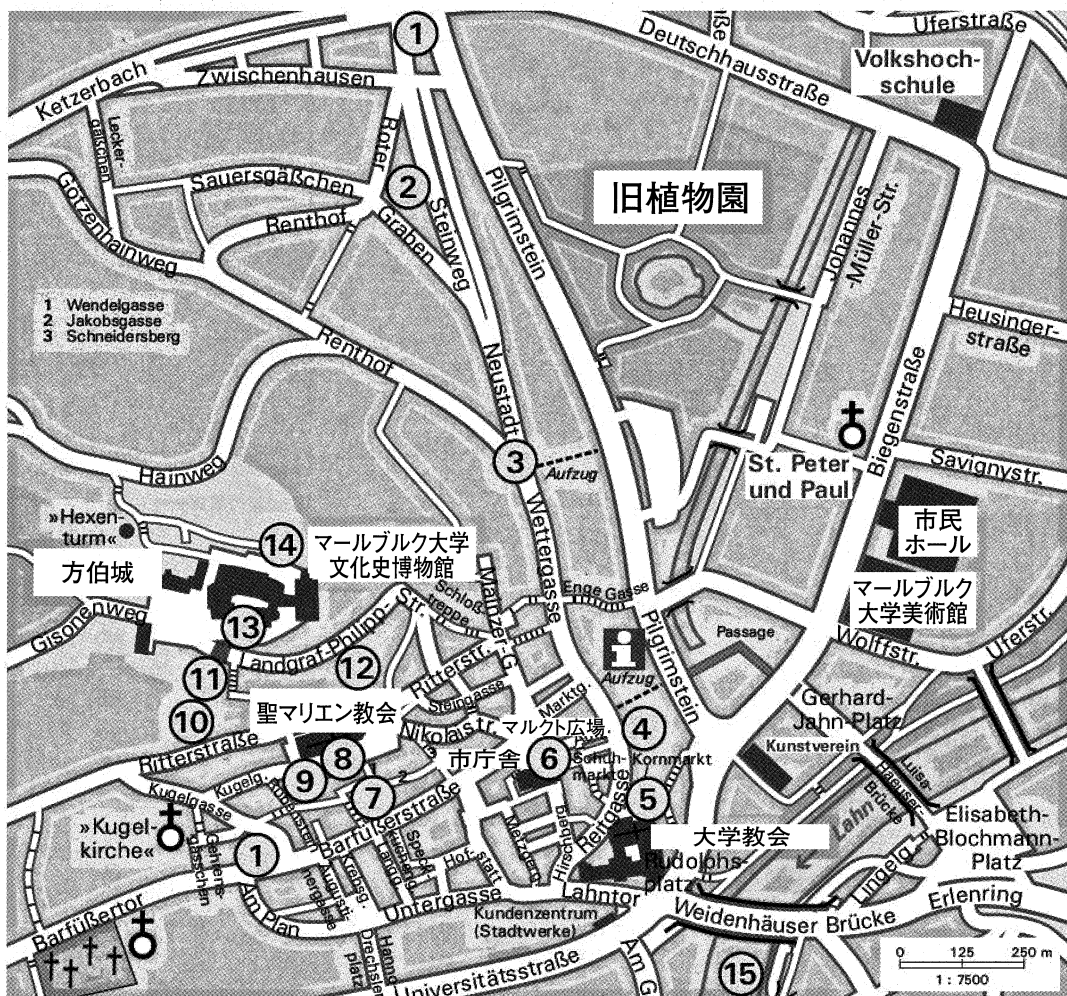


図6 グリムの小道案内、マールブルク市文化局提供、翻訳筆者

- ① **ウサギとハリネズミ** ハリネズミ男とハリネズミ女と走っているウサギのショーウィンドウ・ステッカー〔シュタイン・ヴェーック19番地からパールフェーサー通り7番地まで〕
- ② **オオカミと7匹の子ヤギ** オオカミと子ヤギ像〔シュタインヴェック道、「キャヴェーテ」下方〕
- ③ **カエルの王さま** カエル〔ノイシュタット（新市街）、ヴァッサーシャイデ〕
- ④ **クリーガー貸本店** クリーガー貸本店におけるかつての読書組合（現在のエルヴェルト書店）〔ライト小路7番地〕
- ⑤ **星の銀貨** 光のアートと星の銀貨の本〔大学教会、コルンマルクト広場〕
- ⑥ **勇ましいちびの仕立て屋** 七匹の蠅〔マルクト7番地、マルクト広場〕
- ⑦ **グリムの家** 1802年から1805年まで〔パールフェーサー通り35番地〕
- ⑧ **歴史的市街地図** グリム兄弟大学時代にいたる〔リューベンシュタイン1番地〕
- ⑨ **ヘンゼルとグレーテル** レープクーヘンのお菓子の家〔リューベンシュタイン9番地〕
- ⑩ **サヴィニーの家** グリム兄弟を教えたカール・フリードリヒ・フォン・サヴィニー教授〔フォルストホーフ、リッター通り15番地〕
- ⑪ **引用** ヤーコブ・グリムより〔城へ続くルードヴィヒ・ビッケル階段〕
- ⑫ **灰かぶり** 赤いバンプス〔城壁下方のヴァインベルク（ブドウ畑）〕
- ⑬ **白雪姫** 七つのとんがり帽子〔方伯フィリップ通り、門のアーチ新官房〕
- ⑭ **青い明かり** 城の井戸の中の青い明かり（マールブルク観光マーケティング・エージェンシーへ団体予約が必要）〔城の井戸〕
- ⑮ **漁師とその妻** 魚〔ラン川、貸しボート事務所前、ヴァイデンホイザー橋近く〕